

012

ドローンを活用した災害対策の開発・提案

- ✓ スピーディーかつ低リスク・低コストな物資輸送や状況把握等にドローンを活用

取組主体	従業員数	想定災害	実施地域
イームズロボティクス株式会社	12 名	地震	沖縄県

ドローンの開発や関連サービスの提供を行うイームズロボティクス株式会社は、防災訓練等を通して、低コスト・低リスクの無人移動が可能なドローンの特徴を活かした災害対策の開発・提案を行っている。

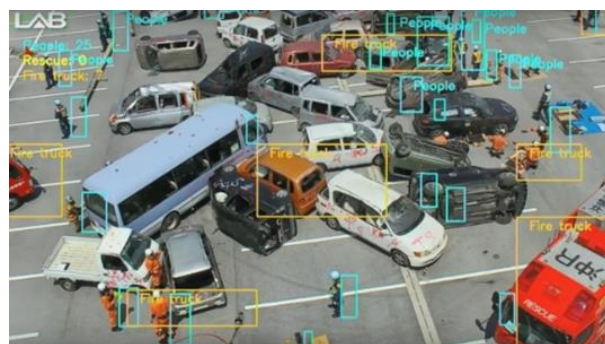
1 取組の特徴（特色、はじめたきっかけ、狙い、工夫した点、苦労した点）

放送用の空撮技術を防災・災害対策・復興に活用

- ・ テレビユー福島の関連会社としてドローンを活用した空撮業務を活動の原点に持つイームズロボティクス株式会社では、東日本大震災において感じた「空を飛ぶカメラがあったら良かったのではないかな」、「地域や社会にもっと貢献できたのではないかな」との思いから、防災関連の取組をスタートさせた。「ロボティクス」とは広く機械工学を意味し、同社はドローンに関する先端研究を行っている。これに関する保有技術を生かした平成 25 年の津波被害地域の復興工事に関連した空撮を皮切りに、翌年には福島市との「災害時における無人航空機による情報収集等に関する協定書」を締結するとともに、東北大学と共同で火山の調査を実施するなど、数多くの防災・災害対策・復興関連プロジェクトに取り組んでいる。

ドローンだからこそできること

- ・ 平成 30 年 9 月に同社は沖縄県総合防災訓練に参加し、ドローンの特徴を活かした取組として、離島への物資輸送、大規模な被災を想定した上空観察等の訓練を行った。例えば物資輸送については、海路や陸路の交通手段に加え情報通信インフラも途絶した状況を念頭におきながら、医薬品や食料等に求められる輸送箱の温度管理も制御した輸送訓練を実施した。また、上空観察においては、早期情報把握、AI を活用した要救助者数のカウント、LTE 回線を活用した画像伝送等を実施し、無人の小型機からの撮影だからこそできる、被災状況や救助活動等の正確な全体像の把握、スピーディーかつ低コスト・低リスクな調査の訓練を行った。



上空からの画像解析による状況把握

2 取組の平時における利活用の状況

- ・ ドローン技術は、平時より物資輸送、点検、獣害対策に広く活用することが可能である。

3 現状の課題・今後の展開等

- ・ 防滴性・防塵性等機能性の向上とともに、ドクターヘリや他の航空機等の運航を妨げない仕組みづくりが必要。

担当者の声



災害現場でのドローン活用を通じて社会貢献をしたいと考えています

- ・ 人間が行うには危険で、コストがかかる仕事を、ドローン技術で代替することで、少ない人的リソースで安全に迅速に災害支援を行うことができ、救助要因が人命救護等の最重要事項に注力することができます。
- ・ 災害をはじめとする課題の解決に資する、社会に必要とされる道具としての、ロボティクスを目指しています。

問合せ先

イームズロボティクス株式会社 法人番号:8380001026668
TEL 024-573-7880 FAX 024-573-7882 E-Mail info@eams-robo.co.jp